

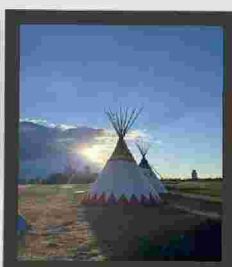
私が見た サンノゼ・ペンドルトン

ペンドルトン



《ホストファミリー》

みんな話しかけると笑顔で答えてくれたりとてもやさしい人ばかりでした。BBQをしたり乗馬したりボーリングをしたり特別な体験をたくさんさせてもらいました。



《ペンドルトン歴史》

ペンドルトンは1798年にキャンベル郡とブラッケン郡の一部を合わせて設立された。現在も独自の言語が残っており学校などで言語を保存するプログラムがあります。



《ペンドルトン感想》

夜に鬼ごっこやかくれんぼ、だるまさんがころんだなどをしたりして学校の友達とお泊り会をしてるよう毎日ワクワクすごせました。
人もすごく優しくて同年代の友達もいたことからすごく緊張せずに話せたと思います。

サンノゼ

《ホームステイ》

ホストファミリーは優しく迎えてくれ、「なにかしたいことや食べたいものがあったら言ってね」といってくれ、とてもありがたかったです。
日本町にいったとお寿司を食べたり、最終日にはショッピングに行ったり、パスタを食べたりしました。



《サンノゼの歴史》

サンノゼ市はシリコンバレーの中心都市である。1890年代から続く歴史ある日系コミュニティが存在し、現在も多くの日本人が住むエリアがあります。
サンノゼ市は全米で一番治安がいい都市としても有名。



《全体の感想 & 学び》

この派遣を通して目標であった「まだ自分が見たことない、感じたことのない世界を知る」ということを達成できたとともに「大切なのは英語力だけでなく、積極性と楽しむ力」だと思いました。10日間という短い間でしたがアメリカ特有のオープンな人柄や雰囲気を感じれたり、大切な仲間と一緒にたくさんの学びを得ることができました。一生心に残る体験をさせてもらえたことに感謝しています。

オレゴン州ペンデルトンの旅

岡山市子ども海外派遣団 中学2年 大西孝典



【ウマティラインディアン居留区】

オレゴン州に位置し、東京都の1/3の面積に部族民 約3000人の部族民と他の居留区から約300人、非部族民 約1500人が生活している。1993年から市民交流が始まり2005年に友好姉妹都市となり教育・文化交流が行われている。

1日目

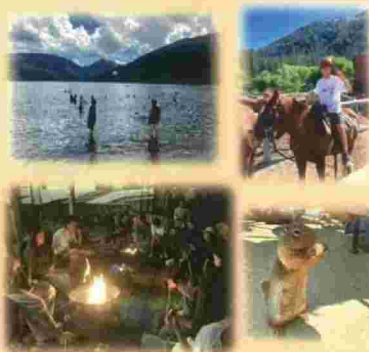
バンドルトンからジョセフへ移動したウンタウンでドン・キとミザを緊張ながら初めて会話をしました。ミザは驚いてうきまぐれ話せませんでした。ジョセフでは「タイク」と呼ばれるテントで宿泊しました。すぐ近くにロバがいて寝ている間も鳴き声が聞こえていました。直前にはに雷雨となり、テントの中心から雨がはいってきたのが自然を肌で感ぜられた本当に良い体験ができたと思いました。ただ夜は本当に暑かったです。



ポトランドからバンドルトンへ移動し、ダンス室?でホストファミリのDONさん達と一緒にソーラン節を踊りました。初めて踊るのに一生懸命踊ってもらえてうれしかったし、感謝します!

2日目

ふもとに降りワロ〜湖へ移動し、ヤックに乗ったり、泳いで遊んだりしました。湖で泳いだのは初めての体験でした。帰りに雷雨になり、ドンさんの家にかえってジャワを浴びているとピー玉くらの大きな雪がふりまいて、今日も大自然を満喫出来ました。夕食ではBBQをしました。その後は、みんなで椅子取りゲームや「Tip top」というゲームをしました。白熱して、とても楽しかったです。ゲームが終わると、みんなでスナックを食べました。火を囲みながら静かに話し、穏やかな時間が流れていました。



ワウ山の頂上まで乗馬をしました。ゴンドラで頂上まで行き昼食を食べました。頂上までつく間、会話したり山の写真を撮ったりしました。岡上では見られない自然の雄大さを感じました。頂上は夏でも17℃程度なので上着が必要でした。頂上についてすぐに野生のリスが目に入りました。とても人懐こく、クワッカーをもちに寄ってきます。

3日目

旅のまとめ
私は海外に行ったことがなく、自分の英語が伝わるか不安でしたが、ホストファミリーの皆さんが温かく歓迎してくれたので、少しずつ不安がなくなり、自分から話しかけてみようという気持ちになりました。また、一緒に生活するうちに、アメリカの文化に慣れることができ、貴重な体験になりました。ありがとうございました。

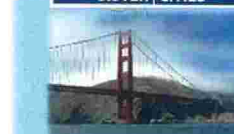


シヨセブのダウンタウン
朝長日本のお土産を買
ました。住宅もお店も土地が
広いので一躍建てが多くな
るに因るため、その後ハイ
ドランドにあるタスマスリク
ト文化博物館に行きました。
そこではネイティブアメリ
カンが生活していた住居、言語
や生活するときに使っていた
道具（鹿、狩りの弓矢、家具
）を見るのができます。
だ、砂漠もあるので移動する
ときは、馬を使っていたそう
です。馬は生活に欠かさない
存在なのだと思いました。



サンノゼ・サンフランシスコの旅

岡山市子ども海外派遣団 中学2年 大西孝典



サンフランシスコ日本総領事館を訪ねました。首席領事官から大使館と領事館の違いや、領事館の役割について説明して頂きました。主にバスポートの更新や入国ビザの発給の他、トラブリング生時のサポート対応などを行っているそうです。「外務省で働く人はどんな人が多いですか？」という質問には、『「心のopenな人が向いている」と回答されました。』



フィッシャーマンズワープで買
い物をしました。そこからゴー
ルデンゲートブリッジやアルカ
トラズが見えました。目の前の
波止場には天然のアシカが群れ
をなしていて少し驚きました。



サンフランシスコ

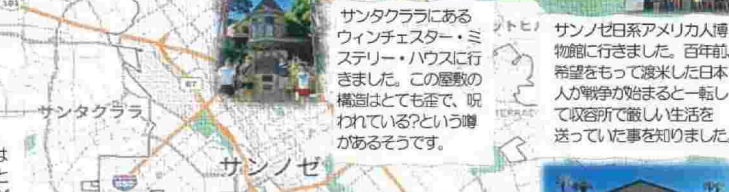
サンノゼ市内にあるグリーパークへ来ました。園内には歴史公園や庭園がありました。歴史公園には竜舟池、中学校などがありました。竜舟池の横のエッフェル塔のモデルになったことで有名なそうです。また学級の教室の出入り口は2つあり男女別々であったことを知りました。また園内には日本が情熱園、友誼村がありました。1966年に友好の証として阿山町の造園家によって造られたと聞かれました。



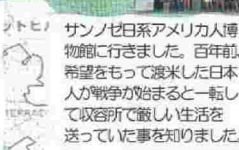
サンノゼ市内に移動し日本友好庭園ティーハウスでホストファミリーの方々と初対面しました。ソーラン節を披露し、一緒に踊ってもらいました。2度目なので自信をもって踊れました。踊りのあとは全員でBBQをしました。夕方から寒くなりましたが、会話が盛り上がり、いつの間にか寒さも忘れていました。



サンタクラには世界的に有名なIT企業がありました。私たちはアップル社のビジターセンターとGoogle社に行きました。自分たちが毎日使っているソフトウェアがここで開発されたと思うと、ときどきしました。サンタクラ通りは道に張り出した看板や電柱がなく、街路樹と建物が印象的で開放感が感じられました。



サンタクララにある
ウィンチェスター・ミ
ステリー・ハウスに行
きました。この屋敷の
構造はとても歪で、呪
われている?という噂
があるそうです。



スタンフォード大学に行きました。敷地の圧倒的な広さに驚きました。野外では音楽を演奏している人達やスケートボードで移動している人を見て自由な雰囲気を感じられました。学生にお店までの道を尋ねたら、親切に道案内してくれて、少し会話をするのができてうれしかったです。

旅のまとめ

ホームステイを通して感じたことは、伝えようとする気持ちをもって会話をすれば、単語だけでなくも伝わることが分かりました。しかし、日本でも外国人と交流する機会はいくさあるので、積極的に参加して英語力を養い、またサンゴに行きたいです。最終日にホストファミリーと外食をしました。出会ってからたった4日間でしたが家族同然に温かく接してくれたいことを思い出すと、寂しさと感謝の気持ちが同時に湧き上がってきました。いろいろな経験をさせて頂き、ありがとうございました。

Umatilla Indian Reservation

ウマティラインディアン居留区

岡山白陵中学校三年 松田 雄一郎

ティピー

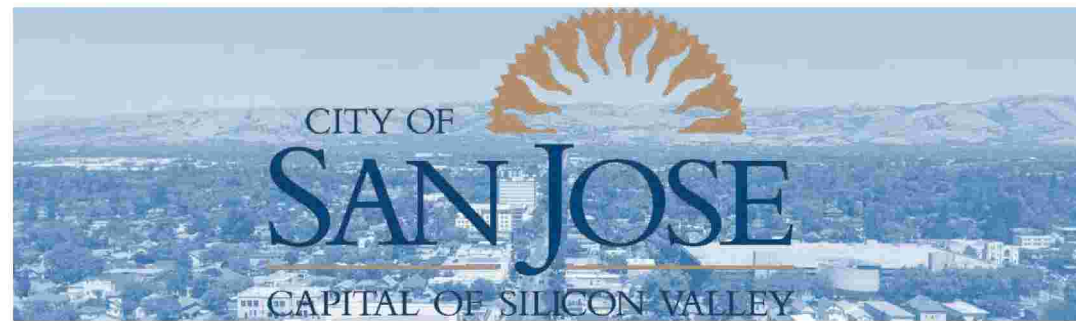
これはネイティブアメリカンの人々が伝統的に使用してきたテントで、ティピーと呼ばれます。私たちはこのテントで二泊し、ネイティブアメリカンの人々の伝統的な生活を体験しました。初めの一晩は雷雨の中での宿泊で、自然の中での生活であることを強く感じました。普段なかなかできない体験で、彼らの伝統を肌で感じることができました。

ホストファミリーとの交流

ワローワ湖での水泳や、ワローワ山の麓での乗馬体験、ワローワ山でゴンドラに乗るなど、自然に囲まれながら様々なアクティビティをしました。他にも、一緒にバーベキューをしたり、様々な遊びを教えてもらって一緒に遊ぶなどして、とても楽しく充実した時間を過ごすこと

博物館(Tamastslikt Cultural Institute)

ネイティブアメリカンの人々の伝統や文化、迫害された悲しい過去など、彼らについての歴史について、生活道具の実物や、リアルな模型、画像や映像など、とても分かりやすく展示、説明がされていました。



岡山白陵中学校三年 松田雄一郎

サンノゼ日系人博物館

この博物館では、主に第一次世界大戦前に渡米した日本人やその子孫が、どのような生活をしていたかや、戦時中の日系人収容政策でどのような扱いを受けていたかについて、彼らが実際に所有していたものなどとともに、展示されていました。

ホストファミリーとの時間



写真のように、ホストファミリーといろいろなところへ出かけました。サンノゼ市内では、マイケルジャクソンのミュージカルや、野球の試合に生きました。また、最終日にはサンフランシスコ市内まで車で行き、フィッシャーマンズワーフやギラデリショップ、ゴールデンゲートブリッジに行きました。様々な観光名所に連れて行ってもらい楽しかったです。そして最終日には、ホストファミリーと彼らの友人も招いてホームパーティをしました。ホストファミリーはとてもやさしく接してくれて、様々な貴重な経験をさせてくれたので本当に感謝しています。

最後に

この旅が始まるまで、期待と不安が入り混じっていましたが、いざ始めると、とても新鮮で楽しい経験ばかりでした。現地の人々は本当にやさしく、温かい方ばかりでした。このように貴重な経験ばかりだったこの旅に携わってくださった方々には、とても感謝しています。ありがとうございました。

サンノゼ・ウマティラ

・ウマティラ・インディアン居留区

ウマティラ・インディアン居留区に行き、ティピーというtentのようなところに泊まりました。一日目の夜には分厚いお肉を食べたり、ホストファミリーの子供たちと鬼ごっこをしたりしてとても楽しかったです。ゲーム中もたくさんコミュニケーションをとることができ、交流を深めることが出来ました。朝晩は冷え込むのでとても寒かったです。とても夕焼けが綺麗でした。



ウマティラ・インディアン居留区最後の日にダウタウンというところに行きました。そこで現地のお土産屋さんに行ってお土産を買いました。お店には楽しい音楽が流れていて店の中に入ると「Hello!」とあいさつをしてくれました。

私はそのお店でポテトチップスを買いました。

買うときに私は現金を出したのですが、「No」と断られてしまいました。なぜかわからず困惑していると店員さんが指をさして教えてくれました。その店は現金で支払うことが出来なかったのです。教えてもらった結果、私はカードで払いましたが日本ではあまりないのでとても焦りました。この経験から日本ではまだ現金を使う人も多いですが、アメリカではキャッシュレ



ス化が進み、カードやスマホで払う人が多いことがわかりました。私にとっては初めての異国の地で分からないこともたくさんありましたがとてもやさしい現地の人や友達に支えられとても楽しいウマティラ・インディアン居留区での生活でした。



・サンノゼ

五日目からサンノゼに行きました。飛行機でサンフランシスコに行き、専用車で移動しました。移動の中でとてもびっくりしたことがありました。バスガイドさんが教えてくださったのですが、サンフランシスコには無人のタクシーがありました。日本にはまだないのでとても驚きました。

サンノゼのホストファミリーと会いました。緊張で固

まっていた私を優しく迎えてくれました。ホストマザーは日本語が話せる方だったので私が通っている学校のことや岡山のことをたくさん質問してくれました。ホストファザーとは英語で会話しました。



↑サンノゼのホストファミリーと

ホストマザーがサンノゼで「びっくりするものがある」と教えてもらったのでびっくりするものまで車で連れて行ってもらいました。なんとそこには岡山になじみ深い桃太郎像があったのです。桃太郎像のとなりには英語で桃太郎のお話がかかれていました。ホストファミリーと交流しながらいろいろなところに行っても楽しかったです。



↑サンノゼにある桃太郎

ウマティラ・インディアン居留区、サンノゼに行って学んだことは、現地の人はとてもやさしくて面白いこと、キャッシュレス化が進んでいて現金で払えない店があること、日本より技術が

進んでいて、無人タクシーも運用されていることです。初めて海外に行った私でも、楽しく過ごすことができ、海外っていいなと思うことが出来ました。そしてより、英語を学びたいなと思いました。また英語を話せるようになってからアメリカに来てみたいです。

谷 優奈

岡山市の姉妹都市であるペンドルトンでの文化交流体験

松尾 慶治

オレゴン州最大の都市ポートランドから東へ約350キロメートルに位置するペンドルトン。人口約3千人、面積696平方キロメートルのこの地で、先住民との貴重な文化交流を体験してきました。



ティピー宿泊体験

ウマティラインディアン伝統的な円錐形住居「ティピー」に実際に宿泊しました。動物の皮を木製ポールに張った構造で、風や寒さから身を守るよう設計されています。

しかし実際は想像以上に寒く、天井の穴から雨漏りもあり、快適とは言えない状況でした。先住民の生活の厳しさを身をもって体験できた貴重な経験でした。



③ ウマティラインディアン居留区について

カイユース族、ウマティラ族、ワラワラ族からなる先住民居留区。多くの住民が「ワシャト」と呼ばれる古代部族宗教を信仰しています。

ワロワ湖の自然

オレゴン州の美しい自然を満喫できる湖。釣り、カヌー、ハイキング、乗馬体験など、雄大な自然の中でさまざまなアクティビティを楽しめます。

ハックルベリー

部族の特産品である甘酸っぱい果実。ブルーベリーのような味で香りが強く、ジャム、紅茶、キャンディーに加工されます。ホームステイ先の犬の名前もハックルベリーでした！

Made with GAMMA

サンノゼ・シリコンバレー探訪

立地・人口

カリフォルニア州サンタクララ郡に位置し、サンフランシスコから南東約80キロメートル。人口約100万人の全米第10位の大都市です。

気候・産業

温暖少雨の地中海性気候。1864年の鉄道開通以来、農産物集散地として栄え、現在は世界の干しブドウ生産地となっています。

シリコンバレーの由来

「シリコン」は半導体産業の中心地であることから、「バレー」はサンフランシスコペイエリアの地理的特徴である谷（valley）を指しています。かつてシリコンが製造されていた歴史も名前の由来となっています。



Apple本社訪問

世界的IT企業Appleの巨大な本社を見学。最先端技術を肌で感じることができる圧倒的な設備規模でした。



Google本社訪問

検索エンジンで有名なGoogleの本社も訪問。革新的な企業文化と最新技術の融合を体験できました。

オックスフォード大学の驚き

世界最古の大学として知られ、英語圏では最古の歴史を誇るオックスフォード大学も訪問しました。キャンパス自体が圧倒的な迫力を持ち、まるでハリーポッターの世界に入り込んだような神秘的な雰囲気でした。

実際にハリーポッター映画の撮影地としても使用されており、日本の大学では体験できない歴史と伝統の重みを感じることができました。



☑ ペンドルトンでは伝統文化の深さを、サンノゼでは最先端技術の力を実感。異なる文化との出会いが、新たな視点をもたらしてくれました。

Made with GAMMA

San Jose and Umatilla Newspapers

制作者
吉岡知咲

・ウマティラってどんな場所??



アメリカの西側にある自然豊かな場所です。
・人口：部族民2916人他の区からの約300人の部族民、約1500人の非部族民がいます。
面積：約702平方キロメートル

気候は日本の夏より少し寒い感じでした！特にウマティラは朝晩よく冷えていました。

ウマティラでの思い出



ホストファミリーの方たちと一緒に踊ったうらじゃ

歓迎会のときに踊ったものです。ホストファミリーの方たちは初めて見るダンスなのに楽しそうに踊っていてすごいなと思いました。初対面だったけどみんなで息を合わせて踊れたことが良かったです。

フローワ湖で泳いだ！！

ホストファミリーのドンさんによるとこの水は飲めるぐらいとてもきれいだそうです！！水はとても冷たかったです！浅いところに小さな魚がたくさんいました。天気は雷がなっていて悪かったです。日本にも琵琶湖とかがありますが湖で遊ぶのは初めてで新鮮な感じがしてすごく印象に残りました。

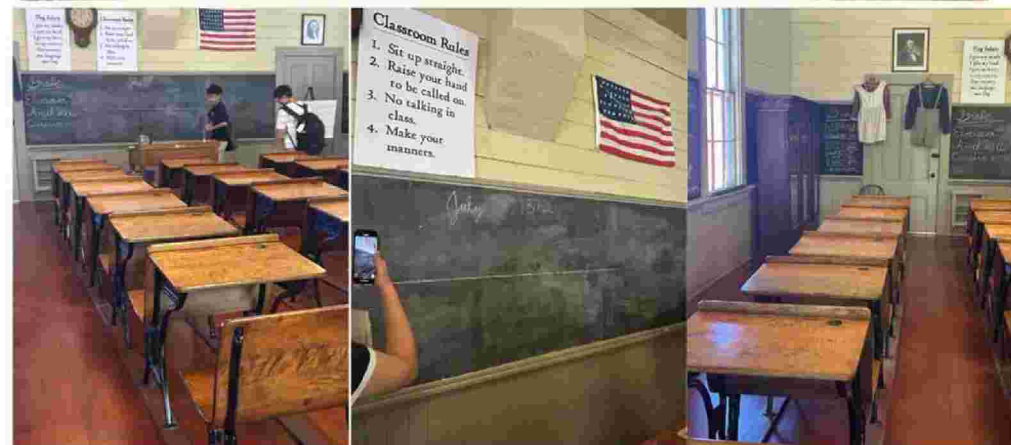


ティピーでお泊り

日本で言うテントみたいなものですが、上が少し空いているので雨が上から入ってきました。簡易的なベットを端っこに並べてそこで寝ました。ネイティブアメリカンが使っていた移動式の家らしく住んでいた人たちの寒さ暑さに耐える力や天候の悪さの適応力がすごいと思いました。



サンノゼでの思い出



昔の学校に実際に行ってきた写真です。ピアノや制服が展示されていました。今のような学校の制度がこの時代からあったことを実感しました。

博物館の方のお話を聞いたあと実際に現地に行って昔と今の違いに触れながらサンノゼの歴史を知ることができました。古くから大切にされてきたものや建物は、今でも大切にされ現地の人に愛されこれからも大切に次の世代に引き継いでいこうという意思を感じました。外国の歴史に興味を持つことができたとても良い機会でした。

今回の派遣のまとめ

今回の派遣を通して今まで知らなかった実際に行ってみないとわからないアメリカのこと、歴史、文化をたくさん体験することができました。ウマティラで現地の子と遊ぶことしたりゲームしたりすることやサンノゼでホストファミリーと一緒に買い物に行き現地のことを教えてもらうこと、一生に一回しかできないようなとても貴重な体験を多くの人たちの支えによってできたことに感謝の気持ちを持ちこれからの生活や将来に生かして頑張っていきたいと思います。

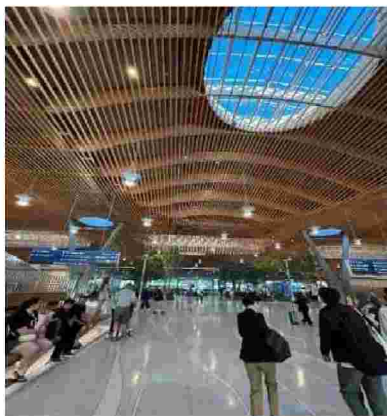
【SAN JOSE・PORTLAND REPORT】

【中学三年 佐藤愛子】

1

PORTLAND

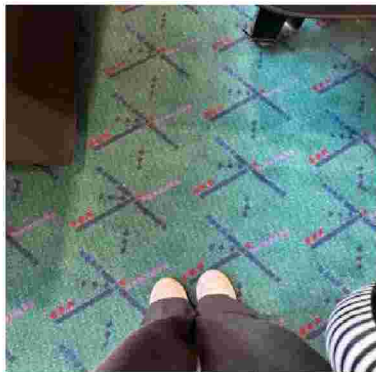
まずはポートランド空港の建物がとても幻想的でした。また、現地の人達の間では、右の写真のように自分の足と空港の絨毯を撮って SNS に投稿するのが流行りだそうです。バスに乗ってからジョセフという地域に行くまでに、ガイドさんがアメリカの交通について基本的なことを教えてくれました。アメリカの国道は奇数番号の国道は南北方向の路線で偶数番号は東西方向の路線だそうです。1日目はポートランドのホテルに泊まりました。その夜ごはんのポテトフライが今まで食べたポテトフライの中で一番おいしかったです。その時から、アメリカの食についてすごく期待していました。



ポートランド空港の内装。

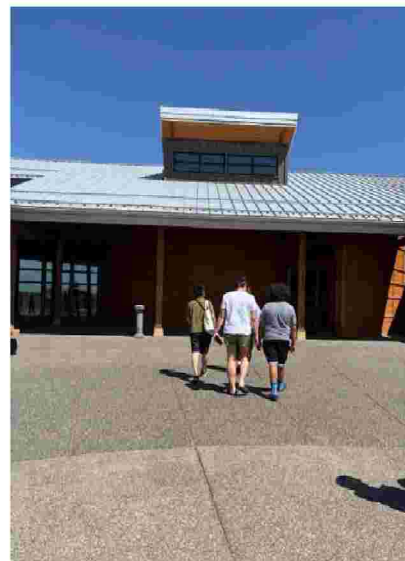
2日目になり、ホテルの外に出ると日本より湿度がなくて乾燥しているためか、すごく寒かったです。気温をみると14℃でした。寒くてびっくりしました。ポートランドからジョセフへバスで行く途中でガイドさんが言ってくれた言葉がすごく心に響きました。それは、「ホストしてくれている方たちはあなたの方の事を知りたいから、私たちが積極的に会話を始めていかなければいけないのよ。」というもの。その言葉を聞いてすごく納得しました。その言葉を聞いて、ホストファミリーの方々に会いました。ホストファミリーの方々になるべく積極的に話すように努力しましたが、いざとなると緊張してこの日はあまり話すことができませんでした。2日目と3日目は、ジョセフでティビーという昔から伝統的なインディア

ンのテントで泊まりました。最初の真夜中は雷と豪雨が発生し、びっくりしました。でも、何とか寝ることはできました。



ポートランドに行ったときに SNS で投稿するみたいでした。

3日目はホストファミリーさんたちとアクティビティーをしました。まずは馬に乗って散歩しました。メンバーのみんなは乗った後にお尻が痛いと言っていたのですが、私はあまり痛くなかったです。私は今までポニーは乗ったことがあったのですが、今回は初めての大人の馬に乗りました。大人の馬はポニーと違って落ち着きがあって、乗りやすかったです。そのあとはワローワ山でゴンドラライドをしました。ゴンドラからの景色は言葉が出ないほどきれいでした。この後は湖で泳ぎました。すごく寒かったです。湖で泳いだおかげでホストファミリーの方たちとの距離が縮めることができました。その途中から、氣候が急変して雷が鳴り、雨が降り出したので、ティビーのへ戻りました。戻ってから豪雨に見舞われました。さらに、人生で初めて見る雪まで降り始めてびっくりしました。夜は BBQ パーティーをしました。デザートはスモアを自分で作って食べました。スモアはアメリカの定番スイーツで焼いたマシュマロとチョコレートをクラッカーで挟んで食べるものです。初めてスモアを食べたので、スモアのおいしさに感動しました。



ホストファミリーさんが建てたウマティラの民族の博物館

4日目はジョセフのお店がたくさん並んでいる商店街で買い物をしました。自分が気に入ったものを買えてよかったです。ホストファミリーさんとお別れする前にホストファミリーさんが建てた民族の博物館に行きました。すごく興味深かったです。最後に近くにあるボーリングで遊んでホストファミリーさんたちとプレゼント交換をしました。それからホストファミリーさんたちとお別れをしてポートランドまでバスで移動しました。バスで行きと同じガイドさんに「行きと全体の雰囲気かレベルアップしていますね。」と言われました。確かに、ジョセフだけでもメンバー同士で友達関係が深まったのではないかなと思いました。

SAN JOSE

5日目はポートランド空港からサンフランシスコ空港まで移動し、サンフランシスコの日本領事館まで行きました。その途中でフィッシャーマンズワーフに行きました。日本人が意外として、人気の観光地なのかなと思いました。日本領事館に着いて、話を聞きました。領事館の方は「この経験は貴重な経験だから、楽しんでください。」とおっしゃっていました。それを聞いて、次のサンノゼの新しいホストファミリーでの生活を頑張ろうと思いました。そして、これからお世話になるホストファミリーの方とのウェルカムパーティーの会場へ行きました。会場でホストファミリーさんへ会って、たくさん話しました。私のホストマザーは高校生の時に就実高校に交換留学生として岡山に滞在したことがある方でした。初めて聞いたときはすごく驚き、親近感が持てました。



ホストファミリーさんの飼い犬。かわいかったです。

6日目はサンノゼの昔の街並みを再現したサンノゼヒストリーパークのツアーに行きました。サンノゼの昔の雰囲気は今のサンノゼとは違ってレトロでした。また、びっくりしたのは昔の学校の入リ口が男子専用と女子専用とで分かれているということです。理由は冬になると極寒なので厚手の服を着ないといけない上に、長距離歩いて学校に登校するので、厚手の服から着替えをする更衣室を男女とを分けていたのです。サンノゼヒストリーパークに行った後は、サンノゼ市役所に行き、サンノゼ市長さんにお会いしました。その後は、解散してホストファミリーと家の近くにあるブルーに行きました。そこに行く前にタピオカを飲んだのですが、そのタピオカもおいしかったです。ブルーで遊んだ後は私がリクエストしたショッピングに行きました。ショッピングモールが日本よりすごく大きくてびっくりしました。そこで買ったお土産は日本に帰って沢山の人たちに喜ばれました。そうするうちに夜の10時なり、遅めの夜ご飯を食べました。その時にホストファミリーさんが私に気を使ってお米を頼んでくれました。ホストファミリーさんの優しさに圧倒されました。



ショッピングモールでの写真

7 日目はサンノゼ日系アメリカ人博物館に行きました。日本語ガイド付きだったので、わかりやすかったです。このガイドの仕事はかなりのリスクのある仕事だとおっしゃっていました。この博物館は日本街にあるので、安全だと思っていますが、実はあまり安全ではないのだそうです。たまに警察が来て何もしていないのに逮捕するという事例があるそうです。そのために「レッドカード」というものがあります。そのカードには『私たちにはこのような権利がありますよ』ということが書かれているそうで、もしそのような警察に捕まりそうになったら自分でその人に向かってレッドカードに書かれていることを読み上げるみたいです。でも、その文を読まなければならないので、英語力は必要不可欠なんだなと思い、英語力の必要性について実感することができました。博文館の後は日本街を散策しました。ちゃんと日本語表示のところもあって日本のお菓子が売っているスーパーもありました。とても充実していたし、人も多かったので、日本の人気度を目で見て確認することができました。散策の後は、ばら十字古代エジプト博物館に行きました。全部英語で何となくでしか理解することができなかったのですが、本物のミイラがあったりその時代の生活が紹介されていたりしてびっくりしました。博物館の後は、私たち海外派遣メンバーをホストしてくれている方の一人がチキン屋のチェーン店のオーナーをしていて、そのお店に行き、みんなで食べました。甘いものから辛いものまでたくさんフレーバーがあってとてもおいしかったです。みんなと別れて私のホストファミリーさんと Morgan Wallen のコンサートに行きました。Morgan Wallen は、カントリーミュージックを歌っているシンガーソングライターです。リーバイススタジアムという大きな会場でのコンサートは大迫力で圧巻でした。しかも、席が普通の席でなくてVIP席だったので感動しました。コンサートでは、料理も充実していて、さまざまな国の食事が楽しめました。今回、私のホストしてくださった Trinhさんは、この料理を食べることも楽しみにされていたようでした。私は、このコンサートをきっかけに Morgan Wallen の曲が好きになりました。コンサートの後から帰国した今も Morgan Wallen の曲をよく聞いています。夜の10時30分までのコンサートが終わってから、車でキャンプ場に向かいました。

8 日目はキャンプでホストファミリーさんの息子さんのクラスメイト達と一緒にいろんなアクティビティーで遊びました。子どもたちと会話するとき自分の伝えたいことを何とかして自分のできる限りの英語力でコミュニケーションすることができたので安心しました。アクティビティーで子どもたちと距離を縮めることができました。

9 日目はホストファミリーさんと過ごす最後の日でした。もう少しアメリカにいたい気持ちでいっぱいでしたが、お礼を言ってお別れしました。またホストファミリーさんと会いたいです。

～まとめ～

まずは無事に自力で家に帰れたことにほっとしています。これで、自分の力で遠出することができると分かりました。今回の海外派遣プロジェクトで日本と海外の文化の違いや様々な面においての違いに気付かされました。アメリカの方たちはみんな優しく、フレンドリーでした。すぐに話しかけるし、冗談が比較的多いです。積極的に話す方がたくさんいます。最初は戸惑いましたが、だんだん慣れます。また、交通に関しても、路上駐車や車線の多さにもびっくりしました。領事館や市長さんの話などを聞けたり、現地の伝統的なことに触れたり、VIP 席に座れたりすることとても貴重な機会でした。その一方でこの旅を通して自分の英語力の課題も見つけることができました。このプロジェクトは自分の家族やホストファミリーの皆さんも含め、たくさんの方々の支えがあってのものなので、その方々にはとても感謝しています。本当にありがとうございます。これらを将来に活かしていきたいです。

私のアメリカ滞在記 2025.7.26～8.4

～未知との出会い～ vol.1 岡山大学附属中学校1年 松島 行治



岡山市の国際友好交流都市・地域であるサンノゼ市と
ウマティラインディアン居留区に8泊10日で訪れました。

- ①サンノゼ市：カリフォルニア州にある都市で、IT・ハイテク産業の集積地であるシリコンバレーの中心都市。1957年5月26日に岡山市と姉妹都市関係を締結。
- ②ウマティラインディアン居留区部族連合：オレゴン州ウマティラ郡に位置する。先住民であるカイユース族・ウマティラ族・ワラワ族から成るインディアン居留区。2005年7月27日に「友好のための合意書」が交わされ、岡山市と交流を深めている。



Traditional

ウマティラインディアン居留区では、ティビーというウマティラ族の伝統的なテント状の住居で2泊しました。夜にテントの屋根が開いて雨が降り込むハプニングも..!ティビーの中で夜まで仲間と話したり、大自然の中で生活することで、ウマティラ族の人々の暮らしや気持ちに少し近づけたように感じました。



ウマティラ族の血筋を引くドンさんたちが、部族連合の歴史を展示している博物館に連れて行ってくれました。白人が来て3部族の土地や文化や命が奪われていった悲しい歴史などを学びました。現在、1924年によりやく合衆国民として認められ生活をしています。

サンノゼのジャパントウンにある「サンノゼ日系アメリカ人博物館」では日系移民の歴史について学びました。ケリーパークでは博物館で開拓移民の当時の生活の展示を見たり、日本庭園を散策したりしました。



Contemporary

在サンフランシスコ日本国総領事館やサンノゼ市役所を訪れました。市役所ではサンノゼの町並みやジャパントウンについて学びました。無人タクシーやアップル製品の自販機など、シリコンバレーならではの発展した面を見ることができました。



私のアメリカ滞在記 2025.7.26～8.4

～未知との出会い～ vol.2 岡山大学附属中学校1年 松島 行治

exchange

サンノゼの日本友好庭園でウェルカムパーティーが開催され、日本の伝統的な踊りである「ソーラン節」をホストファミリー達と一緒に踊り、国境を超えた交流ができました。

4日間ホストファミリーの家に滞在し、親交を深めました。他のホストファミリー達と集合しチキンパーティーをしたり、フィッシャーマンズワーフを訪れゴールデンゲートブリッジを間近に眺めたりと、とても楽しい思い出ができました。



Friendship

初めてのアメリカ滞在はとても楽しく、毎日が新しい発見の連続でした。その中で、ティビーでの生活など仲間と協力し合わなければならない場面も多くありました。今回の海外派遣を共に過ごした仲間や、現地で出会った人々の絆は、かけがえのない宝物です。



Editor's Note

今回の海外派遣を通じ気づいたことは、一つの国には無数の側面があるということです。今まで私は、アメリカは日本よりも技術力があるから街も発展しているのだらうという先入観を持っていました。しかし、実際にティビーに泊まるなどの体験を通じてや、歴史を学ぶことで、物事を多面的に見る大切さを学びました。まさに「百聞は一見にしかず」です。今回の派遣で得た貴重な体験を忘れず、今後活かして行きたいと思います。

